

「日本宇宙少年団周南分団」を訪問しました。

2019年12月15日(日)13:00-15:00 周南市久米市民センターで行われたものづくり科学教室を見学しました。JR徳山駅からバスで15分程度です。今年度の山口県の支援団体は11件で、これが最後です。

この日は、小学生15名程度とその保護者、分団メンバー10名程度が参加されていました。当日の活動内容は、アルキメデスになって浮力の実験です。バネ秤にビンや木片をぶら下げ、重さを測り、それを水につけると「重くなるか、軽くなるか？」と子どもたちに質問を投げかけて実験を開始しました。正解は「軽くなる」でした。ビーカーに水を一杯にしてその中にバネ秤に吊るしたものを浸け、こぼれた水の量(重さ)を測る。水に浸ける前と後のバネ秤のメモリの差が、こぼれた水の重さであることを確認しました。実験をする講師の周りを子どもたちが取り囲み、目を輝かせて熱心に見ていました。その後、席に戻り、配られた材料を使ってバネ秤を作成しました。材料は団体メンバーが準備された手作りのもので、これを保護者と一緒に組み立てました。

終了後は、全員で机とイスを片付けて、子供たちがモップ掛けをしていました。



浮力の実験の様子



保護者と一緒に各自がバネ秤を作成

<宇宙少年団周南分団>

- ・ 2009年3月に、色々な職業を退職した人たちが集まって結成した。結成の翌年から3年間、マツダ財団市民活動支援を受けている。
- ・ 活動の目的は、青少年の健全育成を第一に、青少年にもものづくりと科学への関心を高め、探究心、創造力、向上心の育成を図ることと、親子の触れ合い、他者との協調、感動する心を高め、学びの目標、夢を育む場にあることである。。
- ・ 4月～12月の間、毎月1回子どもたちに科学体験、ものづくりの場を提供している。しかも、同じことではなく、毎回新しいテーマで行うというこだわりをもっている。